

俳雑

第3回

【兜太のことば】

八木 忠栄

昨年二月に金子兜太が亡くなり、その後いくつかの兜太特集が生まれ、いろいろな人の追悼句が多数発表された。単に巨大な俳人として惜しまれたわけでなく、生前からのその活躍が幅広く改めて見直され、高く評価された。ご存知のように、九月には俳句誌「兜太Tota」（黒田杏子編集主幹）が創刊された。

同誌には、兜太自身が「名誉顧問」になっているように、兜太の急逝とは関係なく生前から準備されていたようだ。発行のタイミングが、急逝と合ってしまったというわけなのだろう。世間によくあるように、その死を踏まえてあわてて追悼別冊を編んだというのは本来わけが違う。

「創刊のことば」で編集長・筑紫磐井が述べている「俳句だけにこだわらない「存在者」としての兜太氏の全存在を描きたい」という言葉に、編集の基本的な姿勢があると思われる。いろんな記事があるなかで、三〇ページにおよぶ兜太を囲んだ五氏による生インタビューが示唆深い、ある祝賀会でも歌って好評だった「秩父音頭」を歌っている。音頭の地声をナマで聴きたかった。